

平成三十一年度福岡県農業大学校入学試験問題

* 解答はすべて解答用紙に記入すること

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

A 人生、いつの日に、納得がゆくようになるのだろうか。

哲学を三十年もやっているのに、たしかなことはなにも分かっている。一つ分かると、その分り方がほかに波及し、すべてを理解しなおさなければならなくなる。そうしてじぶんと世界を見る眼全体が変わってゆく。そのあいだにはもちろん① テイコウもある。だから理解はジグザグに進んでゆく。理解とは時間のなかの出来事であって、だから、あときは分からなかったけれどいまだつたら分かるということも起こる。

二十歳の頃、「哲学とはおのれ自身の端緒がたえず② コウシンされてゆく経験である」という、メルロポントイの言葉にふれて哲学の勉強を始めることになったので、人生分らないことだらけになっても、うきうきこそすれ、落ち込むということはない。哲学はその③ タンジヨウ以来、分かることよりも分らないことを知ることの大切さを教えてきた。分らないけれどこれは大事ということを知ること、そのことが重要なのだ、と。哲学はB その意味で、ものごとの理由を、最終的に知りえなくとも「納得」はしたいという欲望のなせる業なのかもしれない。

わたしたちが生きるうえでほんとうに大事なことは、なかなか分らない。いや、大事なことほど分らない。たとえば、ものが在るといふことの意味、わたしがここにいるといふことの意味……。身近なものほどむずかしい。ちなみに顔ひとつとっても、それは他人にとってはわたしの存在そのものなのに、よりによって当のわたしだけはそれを見たことがない。どうしてC そんな非対称の関係がわたしの存在にとって大きな意味をもっているのだろうか。顔というのはいったいどういうものないしは現象なのか……と、考えだしたらきりがなくない。

そういう平衡のとりようのないアンバランスが、わたしたちの存在にはある。もやもや、いらだちや、割り切れなさは、若いときだけでなく、一生つきまとうものだ。

だから、割り切れぬ思いにとらわれたとき、ひとは「なんかいらいらする」とか「しんどい」などと④ カンカク的な語を吐きつづけるか、あるいは逆に、D 分かりやすい因果応報みた物語にかんたんに飛びつく。いまならさしずめトラウマとかアダルトチルドレンなどといった言葉がそれにあたるのだろう。いまのじぶんの塞ぎを過去のある出来事の結果として了解することで、しばらくは、言葉にならない苛立ちやしんどさに (a) 切りがつくというわけだろう。

が、残念ながら、わたしたちはそれほど分かりやすくはできていない。わたしには、「人間はつねに分裂し、自分自身に反対している」とか「ひとは同一のことで泣いたり笑ったりする」とか、さらに「わずかのことがわれわれを悲しませるので、わずかのことがわれわれを⑤ ナグサめる」といったパスカルの⑥ ケイク、つまり、ひとつのことが立ち現われるとかならずその裏面で反対のことが同時に (b) 頭をもたげるという認識のほうがよくリアルだ。E 人間というのはよくよく一筋縄ではいかないものだとおもう。

⑦ 家裁の調停員のひとからおもしろい話を聞いた。双方がそれぞれの言い分をぶつけあつたはてに「⑧ 万策尽きた」「もうあきらめた」と観念したとき、話しあいの途がかりうじて開ける。⑨ ウツタえあいのプロセス、議論のプロセスが「尽くされて」はじめて開けてくる途がある、というのだ。

ここで開けてくるのは理解の途ではない。「理解できないけれど納得はできる」とか「なにも解決はないけれど納得はできる」というときの、その納得の途だ。

納得は、もがき苦しんだ後にしか訪れない。とりわけ家族のあいだのもめ事においては、たがいにとことん言葉をぶつけあい、ののしりあつたはてに、相手がじぶんと同様、士儀から降りずにおなじ

果てしない時間を共有してくれたことそのことにふと思いがおよんだ後にしか、納得は生まれない。そこではともにもがき苦しんだその時間の確認が大きな意味をもつ。

聴くというの、話を聴くというより、F 話そうとして話しきれないその疼きの時間を聴くという事で、相手のそうした聴く姿勢を⑩ サツチしてはじめてひとは口を開く。そのときはもう、聴いてもらえるだけでいいのであって、理解は起こらなくていい。妙に分かれたら逆に腹が立つ。そんなにかんたんに分かれてたまるか、と。

じぶんの人生に納得するというのも同じで、そういうもがきや苦闘の時間をじぶん相手に確認できるかどうかにかかっているようにおもう。

出典 鷺田清一「噛みきれない想い」より

問一 傍線部①、⑩のカタカナを漢字に改め、漢字はその読みを答えよ。

問二 波線部(a)・(b)の意味として最も適当なものをそれぞれ次から一つずつ選び、記号で答えよ。

(a) ア ひとまず終わる イ 傷ついて終わる ウ 完全に終わる エ 終わりを告げる

(b) ア 先頭に立つ イ 重く感じる ウ 形をとってあらわれる エ 頭を持ち上げる

問三 二重傍線部A「人生、いつの日に、納得がゆくようになるのだろうか」について、本文の内容に即して考えるといつだと言えるか。その説明として次の文の空欄に当てはまるように文中から二十一字を抜き出して答えよ。(字数に句読点は含まない)

【説明文】人生に納得がゆくのは、> ようになった後でしかない。

問四 二重傍線部B「その意味で」とはどういう意味でというのが、本文に即して簡潔に説明せよ。

問五 二重傍線部C「そんな非対称な関係」を別の言葉で言い表している部分を二十字以内で本文中から抜き出して答えよ。(字数に句読点は含まない)

問六 二重傍線部D「分かりやすい因果応報じみた物語」とはどうすることを指して言うのか。本文中からそれに該当する部分を三十字以内で見つけ出し、最初と最後の五文字ずつを抜き出して答えよ。(字数に句読点は含まない)

問七 二重傍線部E「人間というのはよくよく一筋縄ではいかないものだとおもう。」の理由に該当するところを「くから」に続くように二十五字以内で見つけ出し、その最初と最後の五文字ずつを抜き出して答えよ。(字数には句読点を含まない)

問八 二重傍線部F「話そうとして話しきれないその疼き」の例として文中に挙げられたもののうち、それにふさわしくないものを次から一つだけ選び、記号で答えよ。

ア 割り切れなさ イ もやもや ウ もがき エ 欲望 オ 苛立ち

第二問 次の文章は、小説「異類婚姻譚」の一節である。これを読んで後の問いに答えよ。

《ここまでのあらすじ》主人公が近所に住む親しい老婦人キタエさんに、自分の夫が体調をくずして会社を休んだにもかかわらず、あるゲームを勝手にし続けたことを話すと、それは何かの誘惑から逃れるためのお経みたいなものだというのだった。

キタエさんと別れた後、夕食の買い物をするためマンションを出た。

A キタエさんに勧められて以来、私もすっかり商店街ひいきになつてしまった。 スーパーより価格も割高だし、① セイサンも店ごとになつて② メンドウなのに、それでもこの、手間暇をかけている、という感覚が妙に、今ののつぺりした生活に奥行きを与えてくれるような気がするのだ。子供もなく、職にも就かず、B 主婦としてどこかふわふわした自分にとって、こうした実感はなかなか得がたい。

今の自分の生活は、島流しと実は③ タイサないのではないか。こんなC 継ぎ目のないような生活をしていると、時間だけはたっぷりあるので、ついそんなしようもないことを考えてしまふ。果実のな

る木があり、動物たちと好きなだけたわむれる時間があり、島は島でも楽園や極楽の類には違いないが、それでもたまに、④無性に自分が元いたところが恋しくなってしまうのである。結婚したばかりの頃は、このままでは自分が駄目になると、D島からの脱出をしばしば本気で考えもした。が、すぐに果実の奪い合いや、他人とのいざこざを思い出し、⑤ケツキヨクはこの極楽を捨てるほどの理由も見つからず、E自分がどこか切り離された人間であるかのように感じながら、こうして今もふわふわ極楽の住人をしてしまっている。

角の花屋を曲がると鮮やかな松葉牡丹が目にとまった。九月に入り、軒先に並ぶ草花も、秋の⑥氣配を漂わせ始めている。さつきキタエさんに言われた「誘惑」という言葉が、妙になまめかしく蘇り、誘惑ねえ、と私は呟いた。最近、F目鼻がちぐはぐな旦那しか見ていないせいか、どうにもピンとこない。青果店でトマトを選びながら、写真でしか見たことのない元妻の像をぼやぼやと結び、旦那に言い寄っているところを想像しようとしてみるが、それより早く言い寄られているG旦那の顔が崩れ出し、一向に⑦キキ感が生まれてこない。

今の自分には、旦那が元妻とヨリを戻すのではないかと心配するよりも、いつか自分もウラノの奥さんのようにベットの死のほう悲しくなるのではないかと考えるほうが、ずっと身につまされるものがある。

段ボールの中から、なるべく形のいい大根を探していると、小学生くらいの男の子が、横をすり抜けて「おじちゃん、これ。」と紙切れと千円札を店主に渡した。はいよ、今日のぶんね。毎日おつかい偉いねえ。袋に詰められた野菜とおつりを受け取った男の子は、⑧仏頂面で店を出ていく。なるほど、ああいう買い方があるのか。⑨カンシンしていると店主と目が合ってしまう、Hなんとなく気まずくて、「ぬか漬け下さい。茄子を一本。」と私は頼んだ。

旦那を誘惑しているのは元妻なんかではなく、人間らしい生活など維持し続ける必要はない、やめてしまえ、という声なのではないか。しゃがんだ店主の野球帽を見下ろしているうち、なぜかそんな風に思えて、どきりとした。はい、この蕪かまのしつぽはサービスね。店主が袋を手を立ち上がると、発酵したぬかの酸っぱい⑩二才ふたさいいが、鼻先にまでつんと運ばれてきた。

出典 本谷有希子「異類婚姻譚」より

問一 傍線部①と⑩のカタカナを漢字に改め、漢字はその読みを答えよ。

問二 二重傍線部Aで「私もすっかり商店街いきになっちゃった」のはなぜか。文中からその理由として「くから」に続けるのにちようどよいところを、句読点を含めて五十字以内で見つけ出し、その最初と最後の五字ずつを抜き出して答えよ。

問三 二重傍線部B「主婦としてどこかふわふわした自分」とは自分の中のどのようなことを指して言った表現か、次の説明文の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- A 自分の夫が体調をくずした時にしっかりと看病できずゲームを続けさせたこと。
- I 極楽にいることを忘れてくよくよと夫と元妻との関係に頭を悩ませ続けていること。
- U 毎日が平凡で何の問題もなく過ごせて、特に何かを意識した生活をしないでよいこと。
- E きちんと決められたルールに従うのではなく、気まぐれで浮わっていること。

問四 二重傍線部C「継ぎ目のないような生活」とほぼ同じような意味で使われている表現を十字以内で抜き出して答えよ。ただし、字数に句読点は含めない。

問五 二重傍線部D「島からの脱出」とは具体的にどうすることか。本文の内容に即して簡潔に説明せよ。

問六 二重傍線部E「自分がどこか切り離された人間である」ということを端的に表現した漢字仮名交じりの三字の言葉を抜き出して答えよ。

問七 二重傍線部F「目鼻がちぐはぐな旦那」とG「旦那の顔が崩れ出し」とが共通に象徴的に表そうとしているのはどのようなことか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- A 旦那が主人公に対して興味を失ってしまっているということ。

イ 旦那が元妻の誘惑に対して人格を失いかけているということ。

ウ 主人公の中で旦那の存在が現実味を失い始めたということ。

エ 主人公にとって旦那の顔が以前とは大きく変わったということ。

問八 二重傍線部Hで「なんとなく気まずくて」となったのはどうしてだと考えられるか。次の中から本文に即して最も適当な理由だと思われるものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 自分が大根を無駄に探している姿を小学生の買い物の仕方と比べてみつもなれなかった気持ちから。

イ 雑念もなく現実の中でしつかりと生きていくことがわかるような子どもの買い物の仕方と態度を自分の生き方と比べて気恥ずかしく思ったから。

ウ まだ何も買っていないだけでなく、店先に立ったままで見知らぬ小学生の動きを眼で追った上、何かに心打たれている様子を見せたことを恥ずかしく思ったから。

エ 自分に比べて小学生の買い物の仕方の方が大人のようにしつかりしていると感じたことを店主に見透かされたのではと思ったから。

第三問 次の各問に答えよ。

問一 次の文学作品の作者名を後の語群から選んで、記号で答えよ。

① 或阿呆の一生

② 銀河鉄道の夜

③ 高瀬舟

④ 草枕

【語群】ア 夏目漱石

イ 芥川龍之介

ウ 志賀直哉

エ 森 鴎外

オ 宮沢賢治

問二 次の四字熟語の空欄⑤、⑩に入れる漢字一字をそれぞれ答えよ。

優柔(⑤)(⑥) ……ぐずぐずしてして、なかなか決断しないこと。

単(⑦)(⑧)入 ……前置きや遠回りを省き、いきなり本論に入ること。

一(⑨)一(⑩) ……一生に一度限りであること。茶道における教えの一つ。

第四問 次の文中の傍線部のカタカナを、それぞれの文意にふさわしい漢字に改めよ。

1 { ① 怪獣が姿をアラワす。
② 研究の成果を書物にアラワす。

2 { ③ その雑誌はキユウカンになった。
④ 病院にキユウカンが運ばれる。

3 { ⑤ 風邪のためキカン支が炎症をおこした。
⑥ 事故のため動力キカンが停止した。

4 { ⑦ 台風にソナえる。
⑧ 神棚に御神酒をソナえる。

5 { ⑨ 早期の解決にツトめる。
⑩ 話し合いの議長をツトめる。